

「家庭教育を実践する日」

News Letter

令和８年11月号

●ご家庭で簡単に実践できる取組を毎月紹介しています。

その「思い込み」を ほぐしてみましょう

家庭に隠れている アンコンシャス・バイアス

「うちの子は人見知りだから」
「どうせ続かないだろう」
「勉強は苦手だから」
　私たちは、子どものことを大切に思うからこそ、このように考えてしまうことがあります。
　でも、それは本当に今の姿でしょうか。子どもは日々成長し、変化しています。過去の経験やイメージだけで子どもを見ていると、新しい一面や可能性を見逃してしまうこともあります。
　こうした「この子はこういう子」という見方や決めつけは、アンコンシャス・バイアス（無意識の思い込み）の一つです。

「知っているつもり」を 少しだけ横に置いてみる

あてはまるものはありませんか？

□この子にはまだ早いかな
□この子には向いていないだろう
□新しいことは嫌がるだろう
□きっと興味はないだろう
□本人に聞いても答えられないだろう
□ 一人でできるはず
□今さら変わらないだろう

　一つでも思い当たったら、子どもを「今の姿」ではなく、「親のイメージ」で見ているのかもしれません。

「決める」より「聞く」

　「この子はこういう子」そう思ったときこそ、一度立ち止まってみましょう。そして「今はどう思う？」と子どもに聞いてみませんか？
　そのひと言が、子どもの新しい挑戦や成長のきっかけになるかもしれません。

アンコンシャス・バイアスって何？



　「アンコンシャス・バイアス（unconscious bias）」という言葉は、日本語で「無意識の偏ったモノの見方」のことで、固定的な性別役割分担意識とともに、ジェンダーギャップの解消が進まない要因の一つと考えられています。アンコンシャス・バイアスは誰もが持っていて、そのこと自体が問題というわけではありません。過去の経験や見聞きしたことに影響を受けて、自然に培われていくため、アンコンシャス・バイアスそのものに良し悪しはありません。

- **悪意がなくても知らず知らずのうちに相手を傷つけていることがあります。**
- **性別や属性で進路や任せる仕事を決めることで、成長やキャリアに影響を及ぼすことがあります。**

　価値観や能力、役割などの「決めつけ」や「押しつけ」に注意することが大切です。「これって、私のアンコンシャス・バイアス？」と振り返り、気づこうとすることから始めてみましょう。
（参考：岐阜県ホームページ男女共同参画推進課 https://www.pref.gifu.lg.jp/page/388154.html）

●家庭教育を実践する日とは？

「家庭の日（毎月第三日曜日）」と「早く家庭に帰る日（8のつく日）」を合わせた日です。**11月は8日、15日、18日、28日**です。



●家庭教育に関するご相談は

岐阜県 県民生活課 生涯学習係
TEL 058-272-8752

このNewsLetterは
岐阜県HPにも掲載しています。
https://www.pref.gifu.lg.jp/page/13009.html

★PDF等のデジタル版であれば、 のある画像等をタップすると、動画やWebページのリンク先を開くことができます。